

会 議 録

会議の名称	第6回特別支援ネットワーク協議会
事務局	小金井市教育委員会学校教育部指導室
開催日時	平成23年5月27日（金）午後3時より午後5時まで
開催場所	前原暫定集会施設2階 B会議室
出席者 （27名）	<p>委員 尾上 明彦（学校教育部長） 鈴木 遵矢（庶務課長） 前島 賢（学務課長） 豊岡 弘敏（指導室長） 尾崎 充男（生涯学習課長） 堀池 浩二（障害福祉課長） 高橋 正恵（子育て支援課長） 小野 朗（保育課長） 高橋 茂夫（児童青少年課長） 宗像隆一郎（市立小・中学校校長会代表） 坂口 昇平（都立特別支援学校校長） 鈴木 律子（民間保育園園長会代表） 道城まゆみ（PTA連合会代表） 田中 夕枝（特別支援学級保護者会代表） 竹中 雪与（小平児童相談所長） 齊藤 修（障害者就労支援センター所長） 村岡 輝一（障害者センター所長） 高橋 智（東京学芸大学教授） 浜井 一郎（公募市民） 馬場 利明（公募市民）</p> <p>臨時委員 尾島 聖子（都立小金井特別支援学校保護者） 山岸 祥子（ピノキオ幼児園保護者） 小野山直美（小金井第二小学校保護者） 小川 瑠美（通級指導学級Ⅰ組保護者） 小野 満理（田無特別支援学校保護者）</p> <p>事務局 神田 恭司（指導室長補佐） 深澤 亘（指導室指導係）</p>
傍聴の可否	Ⓚ ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	5人
傍聴不可等の理由等	なし
会議次第	1 あいさつ 2 自己紹介 3 協議 平成23年度の特別支援等の取組について 4 事務連絡

主な発言
要旨

1 あいさつ（尾上部長）

お集まりくださりありがとうございます。これより第6回協議会を開催する。今回の協議内容は、平成23年度の特別支援等の取組についてである。皆さんからの意見をお願いする。

2 自己紹介

- ・委員からの自己紹介（全委員）

3 協議（議長は尾上部長）

- ・まずは資料4をご覧ください。こちらに平成23年度の特別支援等の取組について載っている。これらについて各課から簡単に説明をしていただきたい。

《障害福祉課長》

「小金井しあわせプラン」における「発達障害などの相談支援体制の構築」及び「発達障害を含む障がいの早期発見」の施策については、地域自立支援協議会において関係各課の管理職を暫定委員に加え、情報提供を共有しつつ横のつながりを強固なものとして計画を策定していきたい。

《児童青少年課長》

- ・発達相談については、東児童館で年12回実施
- ・障害のある児童の入所については、9か所ある学童保育所で入所を実施
- ・学童保育所巡回相談については、各学童保育所では年3回実施

《子育て支援課長》

- ・発達相談については、子ども家庭支援センターにて月2回実施
- ・巡回相談については、子ども家庭支援センターにて専門家により実施
- ・ひまわりママ・子ども家庭支援センターにて発達にアンバランスのある子どもの親の自主グループを支援
- ・要保護児童対策地域協議会については、さらに連携を強化していく。

《保育課長》

- ・市内認可保育所では11園で障害児保育を行っている。公立認可保育所では、定員枠の拡充及び年齢制限の撤廃を検討予定
- ・公立認可保育所5園では、臨床心理士等を巡回させることで、保育士が助言・指導等を受け、機能及び質の向上を図る
- ・ピノキオ幼稚園は平成25年4月に移転が完了予定。また園舎の開放も行なっている。
- ・新園舎の建設にあたり障害児の一時預かりの実施を視野に入れた検討を行う
- ・発達支援に関する施策についても新園舎の移転計画とともに事業展開をしたい、と考えている

主な発言
要旨

《庶務課長》

特別支援関連の施設改修等は特段予定がないが、四小ではトイレの児童用手すりの整備を実施する

《学務課長》

- ・就学援助費の支給を行う
- ・就学支援委員会も開催する
- ・就学支援シートのさらなる活用と充実を目指す
- ・ひまわり学級が開設されたことに伴い、スクールバスを新たに1台増やした

《統括指導主事》

- ・年10回の特別支援学級設置校長会を開催
- ・年10回の特別支援学級推進委員会を開催
- ・特別支援学級介助員（7名）を一小、二小、東小、二中に配置し、障害に応じた指導の充実等を図る
- ・年8回の特別支援教育研修会の実施
- ・精神科医や臨床心理士等がチームを組み、学期に1回ずつ、学校を訪問し特別支援教育を推進する
- ・通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒に教育的支援を行う、特別支援教育学習指導員を配置
- ・特別な支援を必要とする児童・生徒の日常生活上の介助や学習支援を行う特別支援教育支援員2名を平成23年度から各校を巡回派遣
- ・市民等を対象に特別支援教育についての理解を深めるため、特別支援教育後援会を実施予定

《生涯学習課長》

- ・放課後や週末等に小学校等を活用して、地域住民との交流の機会を提供することにより、子どもたちが心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進する放課後子ども教室を開催
- ・心身に障害のある児童生徒の地域活動推進事業を展開する

《尾上部長》

では、これらの取組について委員からご意見があれば伺いたい。

《馬場委員》

就学支援シートについて伺う。シートが色々なところで配布されるのは良く、クラス編成に活かせる。ただ、八王子市を例に挙げると、シートがまず全家庭に配られ、幼稚園・保護者が1月までに作成し学校へ送り、確実にクラス編成に活かされている。小金井市も幼・小のつなぎの時期にシートの使い方を学ぶ機会を設けて欲しい。今のままでは効果が薄い。組織立った取組を。

《学務課長》

主な発言
要旨

シートについて幼・保・小の連携がまだ上手くできていない。上手く繋がるように努力していく。

《小野山委員》

シートを利用して学校に提出したことがあるが、小学校にあがり、また担任に1から話しをしなければならなかったことがある。入学してからもシートが引き続き活用できるような方法を検証してほしい。

《指導室長》

指導室としても教員への周知を図っていく。

《二小校長》

シートについては教員にも役立っている。さらなる連携をして充実していく必要がある。

《高橋委員》

ファイル形式のようにして子どもに関する様々な資料をデータ化し、このまま一式が次へとバトンタッチできるようになれば良いのでは。

《尾上部長》

そのような方法でデータの活用はするべきと考える。また周知の必要性を感じる。

《高橋委員》

現状ではシートを書いても無駄ではないか、と思われることがあるので市を挙げて取り組む必要があると考える。これまでのプロセスを各々が引き継げるようにしなければならない。これは課題である。

《尾上部長》

これらの意見は庁内でも検討していく。

《高橋委員》

発達支援に関する施策について。発達支援センターのスタートが平成25年4月からとなっているが、相談部門や窓口部門だけでも前倒しの開始はできないか。

《保育課長》

相談部門や窓口部門の前倒しについては、以前にも議論になったが、まだ仕組みができてない。検討しなければならないことは認識している。

《高橋委員》

このことで他市へ出かける人もいる。困っている保護者がいるので一歩でも早く取り組んでほしい。

《保育課長》

庁内連絡会で議題としたい。

《小野山委員》

障害児保育について。定員枠の拡大を検討しているようだが、できるだけ早くしてほしい。現状「2枠」だがとても少なすぎる。

《保育課長》

<p>主な発言 要旨</p>	<p>2 枠を 4 枠にすると様々な問題があるが、できるだけ早く拡大するようにしたい。</p> <p>《尾上部長》 明確な結論が出せないか課題として位置づけたい。</p> <p>《坂口委員》 障害者基本法に基づき、当校（小金井特別支援学校）は都立学校の立場から都立・市立の垣根を越えて地域の小中学校の連携をしていければと考えています。</p> <p>《高橋委員》 障害者に対する今の市の施策では、学校を卒業した後の施策が盛り込まれていない。現状行き場が無いのが事実で、卒業した後の支援が必要ではないか。</p> <p>《障害福祉課長》 就労できない人への援助については今後研究させていただきたい。</p> <p>《齊藤委員》 障害者の中には就労はスムーズに進んでいるケースもある。しかし、自分が気がつく前に予め知らせる手立てが必要ではないか。</p> <p>《高橋委員》 その点では発達支援センターにおいて年齢に関係なく行なっていくべきである。</p> <p>《保育課長》 発達支援については、18歳までは必要ではないか、と考える。</p> <p>《馬場委員》 他にやるところがなければ、最低でも18歳までの支援体制が欲しい。</p> <p>《尾上部長》 本日は、色々な意見をいただきありがとうございました。</p> <p>4 事務連絡 次回（第7回）は秋に開催予定である。</p>
<p>提出資料</p>	<p>資料1 小金井特別支援ネットワーク協議会委員名簿 資料2 開催時間希望調査結果 資料3 第5回特別支援ネットワーク協議会会議録 資料4 平成23年度の特別支援等の取組について</p>